

中国の  
僧たちの  
生活

## 禅寺への入門（掛搭）

小川 太龍

禅僧が禅寺に入門すること、また入門し  
て留まることを「掛搭」といいます。掛も  
搭も共に「かける」の意があり、「僧堂（禅  
僧が坐禅を組み寝起きする建物・禅堂）の  
鈎（かぎ）に、生活用品を入れた袋（衣鉢袋）を掛  
ける」ことによる（『禅林象器箋』巻九、等）、  
というように説明されます。

それでは、中国の雲水（行脚僧）たちの  
掛搭について、十四世紀の禅門の軌範書で  
ある『勅修百丈清規』をもとに見てみま  
しょう。

まず、掛搭を願う雲水は旦過寮に入り、

荷を下ろします。次に、知客とよばれる賓  
客の接待役の僧に挨拶し、その後に住持  
（住職）に掛搭を願います。そして維那（堂  
司・悦衆）という僧堂の責任者で修行を統  
括する僧の確認を経て、晴れて僧堂に入り  
ます。

もう少し詳しく見てみましょう。旦過寮  
とは、客僧が一時的に休む部屋や建物であ  
り（『洞霄図志』巻二）、三日間の投宿が許  
され、客僧は丁寧な扱われたとのことだ  
（『禅苑清規』巻八）。掛搭を願う雲水たち  
は、そこで身なりを整え、経験豊富な雲水

から代表者（参頭）を選びます。そして、彼を先頭にして知客に、「暫し到った者が相見に参りました（暫到相看）」と声をかけ、挨拶をします。知客はそれに対して、「遠路のご来訪をこうむり、誠にありがたいことです（山門多幸にして特に遠臨を荷う）」と応じます。その後、住職の下へ行き掛搭を願います。その口上は、「生死事大、無常迅速」（注）でございます。私たちは長らく和尚様のご高名を耳にしており、ご指導いただきたく参りました。どうかお慈悲をもって掛搭をお許してください（某等、生死事大、無常迅速、久しく道風を聞き特に来りて依附せんとす。伏して望むらくは慈悲もて収録せよ）」というものです。その願いを住職が許せば、秘書である侍者のところに行き、名簿に記名します。そし

て、侍者から連絡を受けた維那は彼らを呼び、そこで僧侶の証明書である度牒を確認し、共に修行することを喜ぶ言葉をかけます。最後に係の者が大声で、「雲水の皆さま、僧堂へ行き掛搭ください！（請う衆首座、帰堂掛搭せよ）」と述べ、それにより雲水たちは僧堂に入り本尊に礼拝し、修行生活がはじまるのです。

ただし、このような掛搭の作法や口上は一樣ではなく、他山の住職や和尚が掛搭を願うこともあり、その場合は異なりました。また、それは時代によっても変化したようです。たとえば、最古の清規である『禅苑清規』（十二世紀）は、住職への挨拶は僧堂に入った後、つまり掛搭してから行うことが記されています。さらに、今見た『勅修百丈清規』は、「今時の行脚僧の多く

は旦過寮に入らず、同郷の僧の部屋を訪ねて宿泊している」とも述べています。

なお、現代日本臨済禅の道場では、掛搭に際して、「庭詰づめ」と「旦過詰たんがづめ」という願心の点検が行われています。庭詰は、玄関の式台しきだいで低頭ていとうして入門を願う続けるもので、旦過詰は、旦過寮で坐禅を組み続けるというものです。前者を二日、後者を三日とする道場が多いようです。

このように、禅寺への掛搭は、時代や場所により相違があります。しかし、中国の禅僧たちが掛搭を願う際に述べた、「生死事大、無常迅速」という言葉は、現代日本



木版（花園大学、禅堂）

臨済禅の道場では、時報に用いる木版もくはんにしたためられています。時空を超えてその精神は共有されているともいえるでしょう。

今回、耳慣れない職名がいくつか出てきました。今回は禅寺を運営するさまざまな役割について確認しましょう。

〔注〕 生死は人生の大問題である。

この世は無常で、あつという間に一生は過ぎてしまふ。

小川 太龍（おがわ たいりゅう）

一九七八年兵庫県生まれ。花園大学大学院博士課程単位取得、博士（文学）。専門は中国禅思想史・禅宗史。明石市常楽寺副住職・花園大学文学部准教授・同、国際禅学研究所兼任研究員。

# お願い

## 花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

\*ㄨ切りは毎月1日です。

## 『花園』へのご意見・ご感想など

本誌へのご意見・ご感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8034 京都市右京区花園木辻北町1  
妙心寺派宗務本所内編集室  
俳壇／歌壇／花園 係

\*住所、氏名を必ずお書きください。

\*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

\*なお投稿はお返しいたしません。

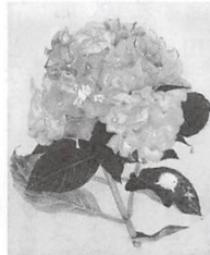
**花園**  
hanazono

「いつもココロに花園を」  
あなたとわたしのポケットエッセイ集

- 【花園】第74巻 第6号(通巻第874号)  
令和6年6月1日発行(毎月1日発行)  
定価60円
- 【発行人】野口善敬  
【編集人】箱崎善法  
【印刷人】古崎良一  
【発行所】京都市右京区花園木辻北町1  
妙心寺派宗務本所 教化センター  
振替／01060-9-1400  
電話／075-463-3121

表紙の絵

あじさい  
「紫陽花」



水をたっぷりと含んだ空が  
花に溶け混んでゆく

絵・元場 葵(もとば あおい)

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,620円(税・送料込)です。  
下記の電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

\*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。